

も生息していますが、一見平凡な自然の中にも四季の移り変わり、長い年月を経ての植物の変化、動植物の食う食われるの関係など、自然の不思議で巧妙な仕組みを垣間見る事ができ、いつ訪れても森は人に新鮮な感動を与えてくれます。

こうした思いをこめて、海上の森の四季と“森へのエッセイ”を通じ、身近な自然のもっている意味が伝えられればと、一冊の本を作りました。

あわただしい都会生活からちょっとはなれて、自然が奏でる“海上の森の詩”にひととき耳を傾けてみてください。

「雑木林の四季を歩こう!」という本書に誘われて、私も海上の森を何度か訪ねた。ものみ山自然観察会の人たちに、里山を案内してもらったこともある。ゼミ生らと一緒に物見山に登ったこともある。海上の森は私たちに里山の魅力を教えてくれた。

そんな海上の森を壊して、万博を行ない、その跡地でニュータウン開発をするという。地元住民だけでなく、国内外の環境保護団体から反対の声がこだまし、それが **BIE** をも突き動かすことになる。

(2019年1月7日)